

令和7年度 山口県学力定着状況確認問題の結果について 【中学校】

下松市教育委員会

1 結果の公表 にあたって

令和7年度「山口県学力定着状況確認問題（CBT方式）」は、児童生徒の学力の状況や生活習慣、学習環境の状況を調査し、県内すべての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図ることを目的として実施しました。

今回の結果をもとにして、本市におきましても、引き続き、学校と家庭・地域が連携・協働し一体となった取組を推進してまいりますので、御協力をお願いします。

○ 実施期日

- ・令和7年10月15日（水）～10月21日（火）小学校5年、中学校1年
- ・令和7年10月10日（金）～10月15日（水）小学校6年、中学校2年

○ 実施内容

小学校5、6年生 国語、算数

中学校1、2年生 国語、数学（※中学校2年生は英語も実施）



2 教科に関する 問題の結果について

【国語】 1年生・2年生ともに県平均正答率を上回っている。

【数学】 1年生は県平均正答率と同程度、2年生は上回っている。

【英語】 県平均正答率をやや上回っている。

記述式問題（考えを書く、理由や方法を説明する等）においては、昨年を引き続き一定の成果が見られました。2年生の数学では、県平均正答率を大きく上回りました。しかし、問題によっては、20%以下の低い正答率の問題もあります。「知識・技能」「思考・判断・表現」とも丁寧に学習に取り組んでいくことが重要です。

◎（市平均正答率の高かった問題）

▲（市平均正答率の低かった問題）

国 語

◎ 原因と結果、意見と根拠など、情景と情景との関係について理解すること（1、2年）

◎ 場面の展開をふまえ、人物像を捉えること（2年）

▲ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること（1年）

▲ 単語の類別について理解すること（2年）



数 学

◎ グラフを読み取り、比例の関係を使って求めること（1年）

◎ 度数を用いてデータの特徴を読み取り、問題の条件に合うように説明すること（2年）

▲ 一次式の減法の問題ができること（1年）

▲ 整数の性質を文字式を用いて説明することができること（2年）



英 語

◎ 日常の話題について、情報を正確に聞き取ることができること

▲ 文脈に合うように内容を考え、基本的な英文を書くこと

▲ 自分の考えを整理し、まとまりのある英語の文章を書くこと



3 課題の見られた問題例

国語 説明や具体例を加えて文章を書く問題 【2年】

3 次の文章は「日本語で文章を書くこと」について書かれています。この文章を小野さんと秋吉さんが話をしています。あとの問いに答えなさい。

小野 この文章は、日本語で文章を書くことのよさを述べているのが伝わってきますね。
秋吉 そうですね。でも、先にその短所を述べているので、私には、あまり日本語で文章を書くことのよさが伝わってきませんでした。
小野 なるほど。
私は、文章の後半で「 」という言葉の後に長所を述べているので、そのよさが強く印象付けられていると思いました。
秋吉 たしかにそのようにも読めますね。ただ、私は「結論を先に述べる」ことも大切だと思うので、述べる順番をよく考えるようにしています。
小野 順番も大切ですが、短所は3点、長所は4点述べているので、私はやっぱり日本語で文章を書くことのよさが伝わってくると思います。

(3) 秋吉さんが言っている「結論を先に述べる」ことについて、あなたはどうか考えますか。次の条件に従って答えなさい。

【条件】

- 「先に述べる」か「後に述べる」か、自分の立場を明確にして書くこと（どちらを選んでもかまいません）。
- 「結論を先に述べること」（「結論を後に述べること」）の効果について書くこと。
- 上記の効果があると判断した今までの経験を書くこと。
- 80字以上100字以内で書くこと。

【解答例】私は、結論を先に述べる方が良いと考えます。なぜなら、発表のときに先に結論を伝え、聞き手の反応がよくなった経験があるからです。結論がすぐにわかることで、話の内容が理解しやすくなる効果があると思います。（100字）

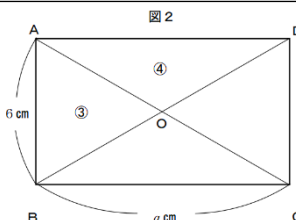
表現の効果と自分の経験を結び付けて考え、それを文章で表現することに課題が見られます。

| 1年生正答率 | 2年生正答率 |
|--------|--------|
| 48.7 | 37.3 |

数学 2つの面積の大小を比較する問題 【1年】

③ (前半省略)

次に、図2のように、縦の長さが6cm、横の長さがa cmの長方形に、2本の対角線を引いてできる図形について考えました。
③の三角形ABOと
④の三角形ADOの関係について
次の4つの中から正しいものを1つ選びなさい。
ただし、a=6のときは除きます。



- ・ ③の三角形と④の三角形は合同な三角形であり、面積は等しい。
- ・ ③の三角形と④の三角形は合同な三角形ではないので、面積は等しくない。
- ・ ③の三角形と④の三角形は合同な三角形ではないが、面積は等しい。
- ・ 長方形の横の長さが分からないので、面積が等しいかどうかは調べることができない。

図形の特徴をふまえ、面積の求め方を整理することが課題です。

| 1年生正答率 |
|--------|
| 34.3 |

英語 基本的な文法事項を活用し英文を書く問題 【2年】

⑥

(2) 【場面】春休み明け、留学生のダニエル(Daniel)さんと健(Ken)さんが話をしています。
次の対話が成り立つように、() 内の語を必要に応じて形を変えて用い、下線部の英文を完成させなさい。

Daniel : Hi, Ken! How was your spring vacation?
Ken : It was great! I went to Hokkaido with my family.
Daniel : Sounds fun! (eat) any good food?
Ken : Yes, I ate miso ramen. Look, here are some pictures.
Daniel : Wow, I want to try this one!

場面や文脈をふまえ、英文で表現することに課題があります。

| 2年生正答率 |
|--------|
| 16.6 |

【正答】Did you eat

4 今後の取組



学 校

● 学校の組織的取組の強化

(教科・学年の枠を超えた研修の推進、学力向上プランの見直し・改善、中学校区における小中連携の取組、ICT 機器を活用した授業実践等)

● 児童生徒の「学力」の向上をめざす授業改善

(「キラリくだまつ授業づくり」の活用、誤答分析を生かした授業改善、「学び直しの場」の充実等)

● 校内研修の活性化と指導の充実

(「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業や研修の充実、「やまぐち学習支援プログラム」や「よむ yomu ワークシート」の活用等)



家庭・地域

● 学習・生活習慣の確立

(「家庭学習の手引き」等の活用、家庭における生活習慣の見直し等)

● コミュニティ・スクールを生かした学習支援、ユニット型研修による人材育成 (地域人材による学習支援)、学力向上をテーマにした児童生徒、地域、教職員等による話し合い (学力熟議)



下松市教育委員会

● 学校担当主事等による伴走支援

● 「キラリくだまつ授業づくり」の実践事例の紹介

● 課題に関する情報提供

● 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりに関する指導・助言

● 下松市学習指導実践研究校の指定

● 下松市教育研究所における人材育成

● 学力向上担当教員等研修会の実施による研修の質の向上等